

東京経済大学報

2023年度
第56巻 第1号



巻頭企画

躍動する

T K U 卒業生

写真家、エッセイスト

ハービー・山口さん (経済学部卒)

「食」で地域を盛り上げる 学生の活動

NEW 誌面講義

最近の経済動向を自分自身で考え抜く

アダム・スミス生誕300年記念企画

— 展示会と講演会 — ほか

東京経済大学



INTERVIEW

写真の専門学校より
大学進学を選んだ理由

——大学に入学される頃までは、闘病の日々だったと伺いました。
生後2カ月で、腰椎が結核菌に侵されるカリエスという病気を患いました。腰の骨が腐ってしまい、以後十数年間、上半身はコルセットで固定されたまま。生育が悪くて体は小さいし、体育の授業はいつも見学。学校では仲間外れにされたり無視されたりと、はじめにも遭いました。

——写真との出会いは、中学2年の部活動だったそうですね。

誘われるままに写真部に入ったのですが、体の弱い自分でも写真なら撮れるし、これで何かを表現できるかもしれないと思いました。何より、周囲から冷たい視線を投げかけられることに慣れていた僕は、レンズを向けるとクラスメイトが笑いかけてくれることが嬉しかった。一日に一人でも自分に笑顔を向ける人がいてくれたら救われる……そう思うほど、深い孤独や疎外感を抱えていたんです。この気持ちは、体験した者にしか分からないかもしれないですね。

——東経大に進学した理由は、写真の専門学校に行くことも



考えましたが、社会の仕組みや人間とはどういうものかといったことを広く学んだうえで写真を撮る方がいいだろうと思い、大学進学を決めました。

面白い授業は多々ありましたが、色川大吉教授の講義は特に思い出深いです。机上の学問ではなく、生活者の視点から語られる思想史や近代史の説得力には圧倒されました。1限目でしたが教室はいつも満杯で、熱気にあふれていましたね。

——東経大の写真部でも、積極的に活動していたそうですね。

10代後半によく病気が快復し、「これからは人並みの生活が送れる」という喜び、解放感がありました。東経大の自由な校風にも後押しされ、とにかくいろんな人に会い、いろんな場所で写真撮る日々でした。学生運動

のデモ隊、近所の神社のお祭り、千葉の漁師、返還前の沖縄、大相撲の取組まで。

キャンパス内の好きな写真は、いまの100周年記念館前の広場で、同じアングルで多様な人物——軽音楽部、落語研究会、テニス部、ボクシング部、将棋部、フェンシング部、食堂の料理人、健康診断の医師など——を撮ったシリーズ。当時の作品は、のちに『1970年、二十歳の憧憬』という写真集にまとめて出版しました。

英国で叩き込まれた
自分の人生の歩き方

——大学卒業後、イギリスへ行かれたのはなぜですか。

就職活動では、新聞社や出版社、広告代理店などの写真部を受けましたが、全部落ちてしまったんです。それで卒業後、写真家に

なるきっかけを何かつかめたらと、半年の間だけイギリスへ行くことにしました。

ただ、生活はすぐに苦しくなり、いつも空腹。住んでいたフラットでは寒さに凍えていました。それでも、「一日でも長くここにいたい。いい写真を撮りたい」という一心でした。異国での日々が、それまで縛られていた価値観——有名大学、優良企業に入って安定した生活を送るのが人生の成功であるといったような——から自分を切り離し、「人生のレールは自分で敷いていくものだ」ということに気付かせてくれたのだと思います。

——そのまま約10年間、ロンドンで過ごしたわけですね。

ビザの更新のために劇団に入って役者業をするなど、紆余曲折ありましたが、渡英から2年ほど経った頃、イギリス人の若手写真家のグループに誘われて共に活動するように。その後、徐々に作品が認められ、やがて、U2、ジョン・ライドン、ミッチ・ミッチェル、キング・クリムゾンのロバート・フリップら、多くのミュージシャンの撮影を手がけるようになりました。

当時はいま以上にアジア人への偏見が根強い時代で、「俺のじいちゃん日本軍に殺されたん

写真も人生も、「ネガ」を「ポジ」にするもの 生きる希望に満ちた写真をこれからも

東京経済大学の卒業生が登場するスペシャル企画。

今号は、写真家として国内外で活躍するハービー・山口さんに話を聞きました。

「だ」と見知らぬ人に凄まれたことも。ただ、音楽や写真、絵画、演劇といったアートの世界においては、人種の別なく「優れた才能はリスペクトする」という態度があったように思います。

特に印象深い出会いは。

30歳の頃、地下鉄のホームで偶然、パンクロックバンド「ザ・クラッシュ」のジョー・ストラマーさんを見かけました。僕は勇気を振り絞って声をかけ、車内で数枚の写真を撮らせてもらいました。電車を降りる直前、不意に振り返って彼は言いました。「君ね、撮りたいものはすべて撮るんだ。それがパンクだろう」。妥協しないで生きていこうぜ、という強く優しいメッセージは、時に自信を失いがちだった僕の背中をポンと押してくれた気がしました。以来、自分のサインの横にはいつも「STAY PUNK」と書き添えています。

相手の幸せを願って シャッターを切る

被写体の懐にスッと入り込む撮影スタイルが印象的です。確かに、被写体の「素」の姿を撮影する機会は多いですね。日本に帰国した後も、布袋寅泰さんや尾崎豊さん、吉川晃司さ

ん、福山雅治さんら、さまざまなミュージシャンに長期密着し、ステージ上とは異なる姿を撮らせてもらいました。また、著名な方だけでなく、同潤会代官山アパートの最後の日々、東日本大震災の被災地で生きる人々の姿、コロナ禍の日常を収めた写真集なども作りました。

どんな時も大事にしているのは、「相手の明日の幸せを祈ってシャッターを切る」ということです。心からの気持ちで相手に伝われば、被写体と僕との間にポジティブな波動のようなものが生まれます。そしてその空気感は、写真にも表れるのです。

これは、どんな職業にも通じることだと思います。タクシীর運転手さんなら、安全に早く目的地に着いて今日を気持ちよく過ごしてもらえるように。料理人の方なら、おいしい料理を食べて明日の活力にってもらえるように。そういう態度で人と向き合っていれば、そこにはきっといい「気」が生まれるはずです。

懸命に生きていけば 人生はうまくいく

ハービーさんの写真を見て、温もりや優しさを感じる人が多いのはなぜだと思いますか。それは、20歳の頃に撮り逃した

「ある表情」をいまもずっと追求めながら僕が写真を撮っているからかもしれません。

50年以上前のことです。近所の公園でバレーボールに興じる少女たちを撮らせてもらっていた時、不意に僕の顔の方にボールが飛んできました。反射的に避けたその瞬間、僕の目に映ったのは、少女の「ああ、当たらずによかった！」という慈しみに満ちた表情でした。自分はこういう「人の優しさ」を撮ろう。そう心に決めた瞬間でした。

ちなみに、彼女との淡い思い出は、僕が作詞をした布袋寅泰さんの「GLORIOUS DAYS」という曲のモチーフになっています。

読者にメッセージを。

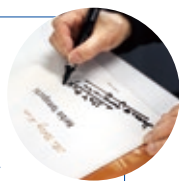
僕は、長年病気を患い、いじめにも遭いました。それは決していい記憶ではないけれど、人の温もりに飢えていたあの日々が、いまの作風を形作ったともいえるでしょう。就職活動でもつまづいたけれど、その結果、イギリスの地で写真家の道を切り拓くことができました。

ネガティブな出来事があっても、諦めず一生懸命に汗を流して生きていけばポジティブに変換していける——人生とはそういうものだと思っています。ちょうど、現像したネガを処理してポ

ジにする写真と同じように、人生もまた「ネガをポジに」しうるものだと思うのです。

僕はいま73歳ですが、写真はこれからもまだまだ撮り続けたい。ラジオ番組やエッセイをきっかけに興味を持ってくれるのも大歓迎。一人でも多くの方に僕の写真に触れていただき、そこから生きる勇気や希望、幸せを感じ取ってもらえたら、こんなに嬉しいことはないですね。

写真集
『The Blitz Kids』
直筆サイン入りで
1名様にプレゼント



応募は、巻末の大学報アンケートからお待ちしています。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

Herbie Yamaguchi

1950年、東京都生まれ。東京経済大学経済学部卒業。73年に渡英、その後のロンドンパンクやニューウェーブのムーブメントを実体験。ミュージシャンの撮影を中心に高い評価を受ける。約10年後に帰国。BOOWY、福山雅治などのアーティストから市井の人々までを撮影。近著に、『人を幸せにする写真』『HOPE 2020- 変わらない日常と明日への言葉』など。

「食」で地域を盛り上げる 学生の活動

ゼミと地域が一体となり、「食」を通じて国分寺の魅力を発信

尾崎寛直ゼミ（経済学部）

異彩を放つ他者との「価値共創」による「人間の経済」の実現

尾崎ゼミは、経済学の中で福祉の分野をテーマに扱うゼミナールです。

国分寺周辺地域に住む障害のある方々が自立した生活を目指すうえで、地域就労モデルを実現する経済活動の支援を行う取り組み「ダイバーシティ&インクルージョン」の実践を2009年度から行っています。

障害者作業所で製造するスイーツの販路拡大や新商品の開発、販売方法の工夫をしながら、実際にキャンパス内やイベント会場などで「障害を持つ方々とそれを支えるスタッフの方々とみなさんをスイーツでつなぐ活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします」というメッセージとともにスイーツの販売を行っています。

学内で年数回販売する、「スイーツいずみ」のシフォンケーキ学内販売

2023年度からは、「ともしび工房」のクッキー等の焼き菓子販売を学内で開始しています。



「オハナ農園」のパウンドケーキ学内販売



「スイーツいずみ」のシフォンケーキ学内販売



尾崎ゼミによる2022年度マルイ国分寺店インクルージョンフェス展示パネル

本学の学生の地域活動は大きく「地域教育活動」と「地域課外活動」の二つに分けられます。

「地域教育活動」は、地域とのかかわりの中で学び実践する教育活動で、授業（「学生の地域貢献」「地域インターンシップ」とゼミ活動があります）。

地域の課題と向き合い「食」を起点に活動するゼミと取り組む商品を紹介します。

実社会における問題解決力を鍛える・鈴木恒雄特別ゼミ（全学共通）

ニーズに即したビジョンを描き、最適な問題解決方法を導く力を養う

鈴木特別ゼミは「人々にとって満足度の高かった問題解決は自身のハッピーにつながる」という理念に基づき、「問題解決」というサービス事業の提案と提供を行っています。

具体的には、ゼミの学習モデルに協力いただく企業等をクライアントとしてとらえ、クライアント別にチームを編成して実践志向型のPBLプロジェクト・ペースド・ラーニングによる社会的課題解決のためのアプローチを学んでいます。

キイニオンチーム

地域の人気パン店「キイニオン東経大店」との協働による、本学ならではの定番商品を創出する「東経大名物パン開発プロジェクト」に取り組んでいます。学生と教職員対象にアンケートを実施し、市場ニーズを把握したうえで新商品の開発、販売することに加えて、学内における市場評価をリサーチしながら販売戦略を策定し新商品の定着を図っています。

こくめしチーム

「国分寺で食べなくなる飯をコンセプトに掲げ、食を基軸に市内飲食店の活性化を企図した「こくめしプロジェクト」に国分寺市商工会と協働で取り組んでいます。個性あふれる国分寺の個人経営の飲食店を多



鈴木特別ゼミと国分寺マルイのコラボ企画「国分寺の〇（おい）しいをお届け！」



2022年度「東経大名物パン」の「もちもちチーズチョコパン」

くの人に認知してもらったため、毎年異なる商材を共通テーマに掲げ、創作メニューを期間限定で提供する学生発の食イベントです。

2022年の「こくめしプロジェクト」では、市内17の個人経営の飲食店に共通商材「丼」をテーマに競演をしていただきました。

11月には鈴木特別ゼミと国分寺マルイのコラボ企画「国分寺の〇（おい）しいをお届け」を開催し、国分寺マルイ1階入口付近で「こくめし」の「丼」弁当と「東経大名物パン」を販売し好評を博しています。



地域経済の観点から実践的な街づくりを学ぶ

鈴木ゼミのテーマは、「売り手よし、買い手よし、街よし」です。地域経済の観点から「三方よし」とする街づくりの在り方を学習します。

ゼミでは街や事業者に着目し、学んできたことを生かしながら地域の特性に即した課題を見出し、ビジネスプラン（提案書）に落とし込み、案件先への提出後にプロジェクトチームを作りプロジェクトを実行するといった、実社会をフィールドにした（外部評価も含めた）実践的な課題解決型のチーム学習を行っています。具体的には、国分寺市が策定した地域産業活性化プランを推進するための最重要課題である、「国分寺お店大賞」の企画運営とデジタル地域通貨の実装に向けた社会実験を実践的な学びの対象としています。

るお店を発掘し、さらなる魅力向上や地域の活性化を図る本事業は、市民投票により「飲食部門」「小売・サービス部門」の2部門でグランプリ店と準グランプリ店を決定し、毎春秋に国分寺市商工会主催の表彰式が開催されます。

過去5年間の取り組みの成果は「国分寺お店大賞」自体の知名度上昇による投票者数の増加や表彰店の新規顧客増加に明確な数字で表れてきています。加えて、表彰店（多くは個人経営店）の努力を投票や表彰によって地域でたたえることによる地域活性化効果は、表彰店経営者の受賞コメントの中の喜びや誇り、投票者による熱意あふれる推薦文の増加といった中にも着実に表れています。

写真（過去に表彰された「チャイニーズレストラン オトメ」「多根果実店」「胡桃堂喫茶店」のメニュー写真です。

このうち、2023年度に6回目を迎える「国分寺お店大賞」は、国分寺市商工会と協働で取り組んでいるプロジェクトです。表彰式の運営協力、表彰されたお店の紹介映像制作、公式SNSの運営などを鈴木ゼミはお店大賞立ち上げ時から担当しています。

詳細はこちら
「国分寺お店大賞」
公式ウェブサイト



2022年度「国分寺お店大賞」表彰式



「チャイニーズレストラン オトメ」の「こくめし」参加メニュー「中華風口モコ丼」
※現在はメニューにありません。



胡桃堂喫茶店の「赤米くるみカレー」



多根果実店の「国分寺チーズケーキ」

国分寺のまちの魅力を発信する「地域課外活動」

大学公式まちづくり学生団体「こくスマ!」の「ぶんじコンシェルジュ」活動紹介

地域連携センター所属の大学公式まちづくり学生団体「こくスマ!」は、「国分寺のスマイルをつくる」をコンセプトに掲げ、国分寺地域の課題解決を目的として活動しています。「こくスマ!」の活動の柱のひとつが「ぶんじコンシェルジュ」の活動です。

研修（前市長・こくぶんじ観光まちづくり協会前会長の星野信夫氏による講義）を受け、「ぶんじコンシェルジュ」の資格認定をされた学生たちが、国分寺駅コンコース内の国分寺市案内所で、平日の17時から19時まで交代で国分寺の観光案内、まちの魅力発信、イベント等の情報提供などを行っています。

「こくスマ!」は、5月の音楽イベント「こくフェス」、11月の「国分寺まつり」、「ぶんぶんウォーク」などの地域イベントにも企画段階から参加し運営に携わるとともに、国分寺駅北口駅前広場での「こくスマ! オンステージ」などの独自企画の運営も行うなどさまざまなかたちで国分寺の魅力を発信しています。



「こくスマ!」
Instagram



国分寺市案内所開設時（2018年）の「こくスマ!」の学生たち



第1回テーマ

最近の経済動向を 自分自身で考え抜く

経済学部教授
井上 裕行



本学の教員が自身の研究や話題のニュースについて解説します。
今回は経済学部の井上裕行教授（研究分野：経済政策）に伺いました。

最近の経済動向を自分で理解する ―「考え抜く実学。」の実践

最近の経済動向を把握するためにはさまざまな方法がある。学術的な専門誌の論文を読んだり、投資家向けのアナリストの報告書を読むという方法もある。政府が発表する経済統計データや公式発表を直接確認することも可能だろう。ネット上にはさらに豊富な情報があふれている。

しかし、実際に一般の人々が経済動向を理解しようとする場合は、テレビや新聞などの既存のメディアを通じて情報を入力することが多いと思われる。先に示したような専門的な情報に対するハードルは高く、簡単な解説付きで手早く理解しようとするのと依然として主要メディアに頼ることになる。

確かに経済動向に関する情報はテレビ、新聞などから大量に提供されている。最近では、新型コロナウイルス対応による経済活動の縮小、ロシアに対する経済制裁による世界的な供給制約、円安、原油高による日本国内でのインフレの加速など、日本経済に関する不安要因が続いている。

本稿では「考え抜く実学。」の

実践例として、現実の経済を理解するために経済学の視点から自分自身で考えることで何が見えてくるのかということを説明してみたい。現実の経済を理解するためにはある程度の経済学の知識は前提となるが、最も重要なのは自分自身で考え抜くという意思を持つことである。

不思議な違和感①

待望されていた「インフレ」が なぜ問題となるのか？

テレビ、新聞などの主要メディアでは最近のインフレを問題視する報道にあふれている。しかし、このインフレに対する評価には奇妙な違和感がある。

アベノミクスによる異次元の金融緩和の実施にもかかわらずインフレが実現しなかった時期には、常にインフレが待望され、インフレの弊害を指摘するような意見は無視されていた。しかし、円安と原油価格上昇により待望されてきたインフ

レが発生すると、主要メディアでは庶民の生活水準の低下などインフレの負の側面が突然強調され始めた。

賃金が増えればインフレが発生すれば実質所得が低下して実質消費が減少し、生活水準が低下するのは当然のことだ。しかし、これまでのアベノミクス推進者の主張では一時的にインフレが先行しても経済全体が活性化するのでトリクルダウン効果も労働者にも及び、

名目賃金も上昇し実質所得も最終的に増加するという楽観的な説明だった。

現在の主要メディアのインフレに対する解釈は、経済学的には標準的な考え方と言える。なぜアベノミクスの実施時にこのような標準的な考え方が無視されることになってしまったのか、なぜインフレが実現した後には評価が突然逆転したのかについて考えてみる必要があるだろう。



不思議な違和感②

インフレ対応で政府は企業に賃金引き上げを要望すべきか？

そもそも政府は企業に賃金引き上げを要望できるのかという素朴な疑問が存在する。さらにいくつかの観点から賃金について考えてみたい。

長期間にわたる賃金停滞と今回の実質所得減少

自由経済の仕組みのもとで政府が企業に賃金引き上げを命令することはできない。賃金は企業の経営判断の中で決定されるべきものであり、労働者の権利保護のためには労働組合などの制度が存在する。企業が政府からの圧力を感じて賃金水準を変更するようなことがあれば、政府による市場への不当な介入となる。

最近のインフレによる実質賃金の低下を問題視するのであれば、むしろ、2000年代を通じて企業が好調な業績を続ける中で賃金が据え置かれたことを問題視する必要があるだろう。実際にはこうした

状況については政府は積極的な対応をとることはせず、労働組合も十分な機能を果たすこともなかった。今回のインフレに対する騒がしい反応と比べるとバランスが欠けているのではないだろうか。

原油価格上昇による所得低下は誰が負担すべきか？

原油価格上昇で電気料金など家計のエネルギー関連消費の負担が増え、さらに原材料価格の上昇に伴い消費財・サービスについて幅広い品目で値上げが実施され、インフレが進んだことで家計の実質所得が低下した。このような状況では労働者がかわいそうだから賃金を引き上げるべきだという主張がメディアで展開されてきた。

実質所得が目減りして悲惨な状況になった家計に対する支援ということであれば、減税を伴う所得補助など明確な政

策対応をとるべきだろう。政府が企業に賃金引き上げを要請するというのは、本来政府が行うべき社会政策について責任放棄したことになる。

原油価格上昇に対する対応については、すでに1970年代に発生した二度の石油危機の際に日本では学習したことがある。

第一次石油危機の際には、原油価格上昇分を企業は製品価格に上乗せし企業利益を確保しようとし、労働者は賃金に上乗せし実質所得を確保しようとしたことで、結果的に国内要因のインフレ圧力を高め、前年比で2〜3割増という激しいインフレが発生し、経済活動の

大混乱を招いた。

これは原油価格上昇による日本から産油国への所得流出の損失を企業と労働者が相互に押しつけ合うという対応がもたらした失敗だった。

これに対する反省から第二次石油危機の際には、国外への所得流出を企業と労働者が分担し合うという対応を選択したため、結果的に国内でのインフレ圧力が抑えられ、原油価格上昇による国内経済への悪影響も限定的となった。

今回の原油価格上昇についてもこのような教訓を踏まえて考えると、賃金をインフレに合わせて単純に引き上げるという対応は国内インフレを加

速させる危険がある。

インフレの評価、インフレの原因などを検討したうえで、本当にインフレを抑える必要があるのであれば、金融引き締めを実施すべきであろうし、家計の所得面での支援が必要であれば減税、所得補助などの政策対応も検討すべきである。しかし、現実としては新型コロナウイルス対応ですでに巨額の財政赤字が追加的に積み上がるような状況であり、金融正常化のめども立たないような状況でアベノミクスを打ち切り金融引き締めを実施することもできない。しかし、これが政府から企業への賃金引き上げ要請を正当化するわけではない。

考え抜くことで自分自身の解決策を見つける

自分自身で考え抜くことで必ずしも単純明快な答えが得られるわけではない。最近のインフレへの対応、賃金決定のあり方についての考察をみてもむしろ問題の複雑性に戸惑う読者も多いかもしれない。しかし、主要メディアから一方

的に提供される結論を安易に受け入れることなく、自分自身で考えるという経験を重ねることこそが自分自身にとって最も適切な対応を導き出すことにつながる。そのことに気が付くことが重要である。



今年1723年に生まれたアダム・スミスの生誕300年にあたります。本学図書館は「経済学の父」スミスを顕彰する2つのイベントを企画しています。一つはスミス関連の貴重書を披露する展示会で、もう一つは展示する貴重書の著者たちに関する研究者3人による講演会です。私はその一人として展示会で披露する本学の貴重書の解説を担当します。

展示会では、スミスの2つの

主著の初版本をはじめ、スミスの恩師のフランシス・ハチスンや先輩格のデイヴィッド・ヒュームの主要著作、後継者的な立場のマルサスやリカードの主要著作―今年はりカードの没後200年でもあります―、そして本学が所蔵する「スミスの最初の体系的批判者」と言われる第8代ローダデル伯の著作などを展示する予定です。

特筆すべきは、スミスの著作に詳細なコメントを記したローダデル伯旧蔵の『国富論』初版(1776年)です。これは単に初版本というだけでなく、各ページの間に白紙を挟み込み、一書を作成すほどの膨大な書き込みが記されているために、自身経済学者でもあったローダデル伯の著作の

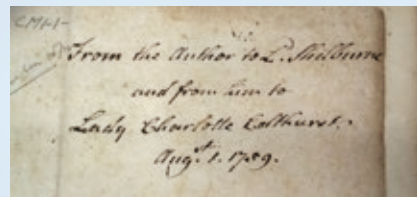
草稿という性格をも併せ持つ唯一無二の貴重な『国富論』初版本になっています。



ローダデル伯は、後に、このノートを発表させて、『国富論』を多分に意識した『公富論』(1804年)というタイトルの著作を公刊しており、そのことが一層この初版本の価値を高めています。なお、このノートは本学の元教授で日本学士院賞受賞者の故杉山忠平先生によって解説され、イギリスで出版されています。

スミスにはもう一つ『道徳感情論』(1759年)という『国富論』に先立って出版され、著者の名声を高らしめた哲学上の著作があります。本学図書館はその初版本も所蔵しています。

この本のタイトルページには左記の書き込みがあります。



著者よりシェルバーン卿へ
そして彼から
シャーロット・コルサースト夫人へ
1759年8月1日

その子弟もシェルバーンの奨めで同じくグラスゴー大学に進んだという縁もありました。初代からコルサースト夫人への寄贈は実質スミスに代わって行われたものだったのでしよう。

講演会では以上のような東経大の至宝を含めた多数の貴重書をご紹介します。また、世界的なコレクションとして知られるローダデル・コレクションが本学に納められた経緯についてもお話しします。

講演会へは学外からお二人の研究者をお招きします。お一方はスミスの専門家で、岡山大学名誉教授で現在特命教授として活躍の新村聡氏です。新村氏は今年度の経済学史学会の大会におけるスミス記念セッションで統括者をお務めになつていらっしゃると思います。もうお一方は神奈川大学教授で元経済学史学会代表幹事の出雲雅志氏で、スミスの後継者的な位置付けにあるマルサスとリカードについてお話しいただくことになっています。

今回の記念企画は、本学図書館が世界に誇る所蔵品に直に接し、そのすばらしさを実感していただける機会となりますので、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

イベント案内

アダム・スミス生誕300年記念企画 ― 展示会と講演会 ―

開催日時 2023年9月30日(土) 13:00 ~ 16:00

講演会場 東京経済大学 国分寺キャンパス 大倉喜八郎 進一層館フォワードホール

講演者 新村聡(岡山大学特命教授)、出雲雅志(神奈川大学教授)、
安川隆司(東京経済大学教授)

申込方法 下記のURLもしくは右記の二次元コードよりお申込みください。
<https://www.tku.ac.jp/event/2023/2023-07-01-021.html>



2023年度 入試結果報告

入試課長 若木 和之



2023年度入試 私立大学志願状況

全国私立大学の23年度志願状況は、前年比96・0％で4年連続の志願者減となりました【グラフ1】。参照した調査における集計対象校の76・1％が志願者減となったようです。

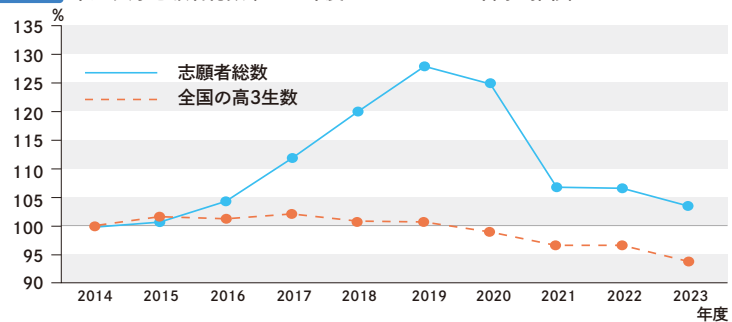
23年度志願状況の特徴として、次のようなことが挙げられます。①受験生総数の減少(98・2％【推定】)を上回る志願者減(96・0％)②全国的に中小規模大学の約8割が志願者減、③年内入試へのシフトの進行、④「2

月入試」の競争緩和、⑤受験生一人当たりの出願数の減少、⑥「大都市志向」「大規模大学志向」の復活、⑦共通テスト利用方式離れの進行。
(豊島経男事務所「2023年度一般選抜志願状況レポート最終報」より)

入試結果 本学の2023年度

このような入試環境の中、本学の2023年度入試(第一次対象)の総志願者数は、9,594人(前年比91・5％)。内、一般選抜・共通テスト利用選抜の志願者数は、8,523人(前年比89・5％)でした【グラフ2】。多くの中規模大学で志願者数が減少する中、本学でも志願者数を減らす結果となりました。これは、前述の全国的な傾向が本学にも当てはまることの原因となっています。例えば「年内入試へのシフトの進行」については、【表1】のとおり、推薦・総合型等の志願者数が前年比111・6％と増加しています。志願者数の規模は少ないものの、ここに含まれる入試のほとんどは、

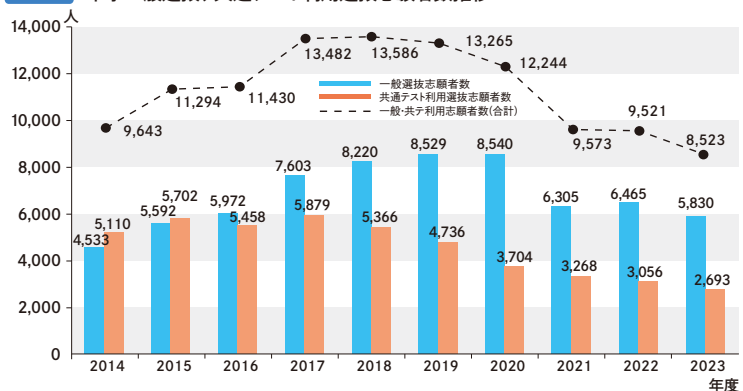
グラフ1 私立大学志願者総数(2014年度を100とした10年間の推移)



合格者がそのまま入学する第一志望が前提のものばかりです。で、昨今の入試環境において、年内入試での志願者を確保することは大変重要です。一般選抜・共通テスト利用選抜の志願者数が減少した状況で入学定員を確保できたのは、年内入試の志願者を確保できたことが大きかったと言えます。

とはいえ、一般選抜・共通テ

グラフ2 本学一般選抜、共通テスト利用選抜志願者数推移



スト利用選抜の志願者数を確保することは引き続き重要です。2023年度入試でいくつか行なった入試制度変更は、残念ながら志願者数増加には結び付きませんでした。2024年度入試では、共通テスト利用選抜前期で英語外部試験が利用できるように制度変更しました。2025年度には高等学校の新学習指導要領に対応した入試が始まります。18歳入

口は減少を続けますが、志願者を確保するための入試制度改革を検討してまいります。

また、入試広報については、感染症の状況を注視しつつ、オンライン 캠퍼스等をコロナ禍前のプログラムに戻します。コロナ禍で新たに始めたオンライン広報を織り交ぜながら、受験生の皆様に本学の魅力を伝え、分かりやすい情報提供を行ってまいります。

表1 志願者数2カ年比較

		教科型	2022年度	2023年度	前年比
一般	前期	3教科型	2,690	2,057	76.5%
		ベスト2型	2,318	2,404	103.7%
	後期	2教科型	736	617	83.8%
		2教科型	721	752	104.3%
共テ	前期	3教科型	1,975	1,760	89.1%
		2教科型	865	699	80.8%
	中期	4科目型	115	130	113.0%
		3教科型	101	104	103.0%
一般・共テ 計			9,521	8,523	89.5%
推薦・総合型等 計			960	1,071	111.6%
合計			10,481	9,594	91.5%

2022年度 (2023年3月卒業生) 就職状況報告

キャリアセンター長 齋藤 隆大



2022年度の就職環境

新卒者の就職動向を予測するための指標として広く活用されているリクルートワークス研究所調査は、2023年3月卒業予定の大学生・大学院生対象の大卒求人倍率は1.58倍と、前年の1.50倍より0.08ポイント上昇した」と公表しました。採用意欲は回復傾向にあるものの、コロナ禍前のような水準（1.6倍以上）までは採用拡大に慎重な姿勢がみられる結果となりました（大卒求人倍率の推移については【資料】の

一番下の折れ線参照）。

2022年度のキャリア支援

採用活動の早期化への対応として、主に3年生向けの支援行事の開催時期を全体として早期化し、就職活動の早めの準備を促しました。また、インターンシップ等（1day仕事体験）などを含むが職業観育成・就職活動の早期準備に寄与する点、及び多くの企業でインターンシップ等での接点を起点として早期に採用活動が行われている実態を踏まえ、インターンシップ等に参加するための支援を強化して実施しました。

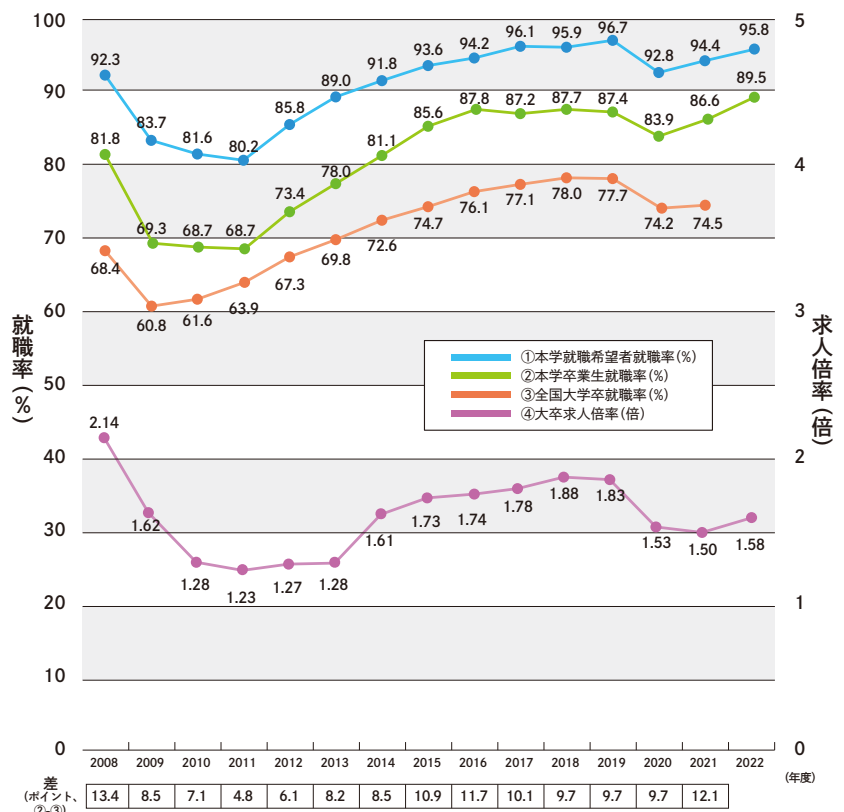
4年生向けの支援として、合同企業説明会や面接練習会、テーマ別フォローガイダンスを卒業間近の3月まで定期的に開催しました。また、企業から大学宛てに送られてくる求人票の提供だけでなく、企業向けにアンケート調査を実施し、回答で得られた採用活動継続の情報を一覧にして学生に公開しました。さらに、4年生専用の個別相談枠を確保し、4年生専属カウンセ

2022年度(2023年3月卒業生)の就職状況

前述の支援の結果、2023年3月卒業生の就職希望者就職率は95.8%で、前年度(94.4

率)を中心に継続的な面談実施の支援を行いました。

資料 本学就職率・全国大学卒就職率・大卒求人倍率推移



率)比+1.4ポイント、卒業生就職率は89.5%で、前年度(86.6%)比+2.9ポイントと、2年連続で前年度の就職率を上回る結果となりました。(就職希望者就職率、卒業生就職率の推移については【資料】の上2つの折れ線参照)。

2023年度においても企業訪問等によって得られる最新の動向・情報を活用しながら、学生向けには対面による行事を増やしつつ、オンラインのメリットを活かした支援も継続し、学生一人ひとりを最後まで粘り強く支援してまいります。

2022年度 決算書概要

2023年度 予算書概要

学校法人東京経済大学の2022年度(令和4年度)の事業報告と決算が5月25日開催の評議員会・理事会において承認され、確定いたしました。また、2023年度(令和5年度)の事業計画と予算がすでに3月24日開催の評議員会・理事会において決定しています。2022年度決算書概要及び2023年度予算書概要を掲載いたしますのでご覧ください。なお、2022年度事業報告書及び2023年度事業計画は東京経済大学公式サイトに掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

令和4年度収支決算

資金収支計算書 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで (単位:円)

科目	予算	決算	差異
収入の部			
学生生徒等納付金収入	7,116,767,000	7,116,923,000	△156,000
手数料収入	275,850,000	257,767,282	18,082,718
寄付金収入	57,328,000	80,829,672	△23,501,672
補助金収入	821,008,000	840,495,434	△19,487,434
資産売却収入	3,631,488,000	5,636,083,528	△2,004,595,528
付随事業・収益事業収入	54,342,000	53,776,100	565,900
受取利息・配当金収入	280,000,000	326,599,907	△46,599,907
雑収入	312,609,000	341,363,124	△28,754,124
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,665,216,000	3,085,345,860	△420,129,860
その他の収入	698,911,000	678,751,993	20,159,007
資金収入調整勘定	△2,986,132,000	△2,959,135,350	△26,996,650
前年度繰越支払資金	7,808,375,000	7,808,374,963	—
収入の部合計	20,735,762,000	23,267,175,513	△2,531,413,513
支出の部			
人件費支出	4,565,027,000	4,542,176,081	22,850,919
教育研究経費支出	2,630,694,000	2,555,669,497	75,024,503
管理経費支出	461,678,000	438,005,360	23,672,640
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	90,450,000	66,170,500	24,279,500
設備関係支出	155,278,000	156,495,095	△1,217,095
資産運用支出	3,675,816,000	3,783,303,307	△107,487,307
その他の支出	115,158,000	191,714,581	△76,556,581
[予備費]	(0)	—	10,000,000
資金支出調整勘定	△35,689,000	△102,716,199	67,027,199
翌年度繰越支払資金	9,067,350,000	11,636,357,291	△2,569,007,291
支出の部合計	20,735,762,000	23,267,175,513	△2,531,413,513

貸借対照表 令和5年3月31日 (単位:円)

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	35,195,433,005	37,166,617,012	△1,971,184,007
(有形固定資産)	(17,895,064,901)	(18,434,548,227)	(△539,483,326)
(特定資産)	(9,084,298,092)	(8,848,589,123)	(235,708,969)
(その他の固定資産)	(8,216,070,012)	(9,883,479,662)	(△1,667,409,650)
流動資産	11,850,443,112	8,036,138,744	3,814,304,368
資産の部合計	47,045,876,117	45,202,755,756	1,843,120,361
負債の部			
固定負債	2,840,455,217	2,912,979,365	△72,524,148
流動負債	3,467,055,143	3,220,096,264	246,958,879
負債の部合計	6,307,510,360	6,133,075,629	174,434,731
純資産の部			
基本金	40,643,189,304	40,212,440,649	430,748,655
第1号基本金	33,931,104,048	33,810,375,029	120,729,019
第2号基本金	1,433,814,414	1,133,814,414	300,000,000
第3号基本金	4,752,270,842	4,742,251,206	10,019,636
第4号基本金	526,000,000	526,000,000	0
繰越収支差額	95,176,453	△1,142,760,522	1,237,936,975
純資産の部合計	40,738,365,757	39,069,680,127	1,668,685,630
負債及び純資産の部合計	47,045,876,117	45,202,755,756	1,843,120,361

事業活動収支計算書 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで (単位:円)

		科目	予算	決算	差異
教育活動収支	収入の部	事業活動 学生生徒等納付金	7,116,767,000	7,116,923,000	△156,000
		手数料	275,850,000	257,767,282	18,082,718
		寄付金	58,274,000	81,103,272	△22,829,272
		経常費等補助金	821,008,000	838,473,434	△17,465,434
		付随事業収入	54,342,000	53,776,100	565,900
		雑収入	312,609,000	341,363,124	△28,754,124
		教育活動収入計	8,638,850,000	8,689,406,212	△50,556,212
	支出の部	事業活動 人件費	4,491,024,000	4,467,018,989	24,005,011
		教育研究経費	3,378,728,000	3,303,559,296	75,168,704
		管理経費	477,080,000	453,407,420	23,672,580
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	8,346,832,000	8,223,985,705	122,846,295
	教育活動収支差額		292,018,000	465,420,507	△173,402,507
教育活動外収支	収入の部	事業活動 受取利息・配当金	280,000,000	326,599,907	△46,599,907
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	280,000,000	326,599,907	△46,599,907
	支出の部	事業活動 借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		280,000,000	326,599,907	△46,599,907
経常収支差額		572,018,000	792,020,414	△220,002,414	
特別収支	収入の部	事業活動 資産売却差額	606,680,000	1,031,092,256	△424,412,256
		その他の特別収入	2,000,000	8,539,930	△6,539,930
		特別収入計	608,680,000	1,039,632,186	△430,952,186
	支出の部	事業活動 資産処分差額	4,924,000	162,966,970	△158,042,970
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	4,924,000	162,966,970	△158,042,970
	特別収支差額		603,756,000	876,665,216	△272,909,216
〔予備費〕		(0) 10,000,000	—	10,000,000	
基本金組入前当年度収支差額		1,165,774,000	1,668,685,630	△502,911,630	
基本金組入額合計		△419,537,000	△430,748,655	11,211,655	
当年度収支差額		746,237,000	1,237,936,975	△491,699,975	
前年度繰越収支差額		△1,142,760,000	△1,142,760,522	522	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△396,523,000	95,176,453	△491,699,453	
(参考)					
事業活動収入計		9,527,530,000	10,055,638,305	△528,108,305	
事業活動支出計		8,361,756,000	8,386,952,675	△25,196,675	

令和5年度予算

資金収支予算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで (単位: 千円)

科目	5年度予算	4年度予算	増減 (△)
収入の部			
学生生徒等納付金収入	7,152,291	7,116,767	35,524
手数料収入	275,381	275,850	△469
寄付金収入	24,537	57,328	△32,791
補助金収入	840,104	821,008	19,096
資産売却収入	1,315,517	3,631,488	△2,315,971
付随事業・収益事業収入	63,634	54,342	9,292
受取利息・配当金収入	264,000	280,000	△16,000
雑収入	257,665	312,609	△54,944
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,689,498	2,665,216	24,282
その他の収入	629,593	698,911	△69,318
資金収入調整勘定	△2,872,787	△2,986,132	113,345
前年度繰越支払資金	9,067,350	7,808,375	—
収入の部合計	19,706,783	20,735,762	△1,028,979
支出の部			
人件費支出	4,498,775	4,565,027	△66,252
教育研究経費支出	2,821,910	2,630,694	191,216
管理経費支出	476,286	461,678	14,608
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	86,564	90,450	△3,886
設備関係支出	250,306	155,278	95,028
資産運用支出	3,642,834	3,675,816	△32,982
その他の支出	35,000	115,158	△80,158
[予備費]	10,000	10,000	0
資金支出調整勘定	△35,000	△35,689	689
翌年度繰越支払資金	7,920,108	9,067,350	△1,147,242
支出の部合計	19,706,783	20,735,762	△1,028,979

事業活動収支予算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで (単位: 千円)

科目		5年度予算	4年度予算	増減 (△)	
教育活動収支	収入の部 事業活動	学生生徒等納付金	7,152,291	7,116,767	35,524
		手数料	275,381	275,850	△469
		寄付金	21,000	58,274	△37,274
		経常費等補助金	840,104	821,008	19,096
		付随事業収入	63,634	54,342	9,292
		雑収入	257,665	312,609	△54,944
		教育活動収入計	8,610,075	8,638,850	△28,775
	支出の部 事業活動	人件費	4,470,770	4,491,024	△20,254
		教育研究経費	3,559,457	3,378,728	180,729
		管理経費	489,816	477,080	12,736
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	8,520,043	8,346,832	173,211
	教育活動収支差額		90,032	292,018	△201,986
教育活動外収支	収入の部 事業活動	受取利息・配当金	264,000	280,000	△16,000
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	264,000	280,000	△16,000
	支出の部 事業活動	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		264,000	280,000	△16,000
経常収支差額		354,032	572,018	△217,986	
特別収支	収入の部 事業活動	資産売却差額	0	606,680	△606,680
		その他の特別収入	5,537	2,000	3,537
		特別収入計	5,537	608,680	△603,143
	支出の部 事業活動	資産処分差額	5,000	4,924	76
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	5,000	4,924	76
	特別収支差額		537	603,756	△603,219
〔予備費〕		10,000	10,000	0	
基本金組入前当年度収支差額		344,569	1,165,774	△821,205	
基本金組入額合計		△545,259	△419,537	△125,722	
当年度収支差額		△200,690	746,237	△946,927	
前年度繰越収支差額		△396,523	△1,142,760	746,237	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△597,213	△396,523	△200,690	
(参考)					
事業活動収入計		8,879,612	9,527,530	△647,918	
事業活動支出計		8,535,043	8,361,756	173,287	

寄 付 者 ご 芳 名

東京経済大学への ご寄付について

東京経済大学へのご寄付につきましては、卒業生、ご父母をはじめ学内外の多くの皆様からご支援ご協力をいただいております。皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。

昨年十一月に新たに恒常的な寄付金制度『進一層』募金を制定し十二月から募集を開始いたしました。今回は四月末日までにご寄付をいただきました皆様のご芳名をご紹介しますいただきます。実質的なスタートしてから五カ月程の間に多くの皆様からのご協力をいただいております。引き続き皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、ご芳名の掲載は、ご本人様のご了解をいただいた方のみとさせていただきます。

二〇二三年七月

学校法人 東京経済大学

理事長 菅原 寛貴

東京経済大学

学長 岡本 英男

学生支援奨学募金

大学奨学基金寄付金

アドバンスプログラム
推進基金寄付金

国際交流奨学基金寄付金

スポーツ振興基金寄付金

研究奨励募金

研究奨励基金寄付金

キャンパス整備募金

東経の森・水と緑の募金

修学支援特別奨学寄付金

スポーツ・文化振興募金

◎体育会

端艇部

硬式野球部

陸上競技部

硬式庭球部

バレーボール部

寄 付 者 ご 芳 名

アメリカンフットボール部

スキー部

合気道部

サッカー部

ヨット部

軟式野球部

射撃部

◎文化会

落語研究会

ゼミナール等支援募金

その他の寄付

地域みらいプロジェクト助成金
(令和5年度)

大倉学芸振興会への寄付

経済的に困窮した学生への生活支援

現物寄付



版画『かぼちゃ』

教育振興資金

経済学部

経済学部

コミュニケーション学部

現代法学部

各募金の詳細は、こちらの大学公式サイトをご覧ください。

<https://www.tku.ac.jp/tku/kifu/shogaku.html>



東京経済大学へのご寄付はこちらから
お願いいたします。

<https://fundexapp.jp/tku/entry.php>



各サークルへの
ご寄付をお考えの方

● インターネットからのクレジット決済による寄付をお考えの方は、上記二次元コードより本学寄付金公式サイトのご寄付目的「スポーツ・文化振興募金」を選択いただき、下段の支援先欄から希望のサークル名を選択してください。

振り込みによる
ご寄付をお考えの方

● ゆうちょ銀行(郵便局)からお振込みをご希望の方は、校友センター募金室までご連絡ください。専用振込用紙をお送りいたします。

ゆうちょ銀行(郵便局)、銀行から直接お振込みをされる方は、以下の口座番号までお願いいたします。

ゆうちょ銀行

三菱 UFJ 銀行

□口座番号 00180-2-263663

支店名 国分寺支店 □口座番号 (普) 0283543

加入者名 学校法人東京経済大学寄付金口

□口座名義 学校法人東京経済大学寄付金口

寄付金に関するお問い合わせはこちらまでお願いいたします。

総合企画部校友センター募金室

TEL

042-328-6100

MAIL

bokin@s.tku.ac.jp

国分寺キャンパス第2期整備事業について

学長 岡本英男

東京経済大学では、2020年10月23日に、前身である大倉商業学校の創立から120周年を迎え、これを機会に教育・研究の充実・改革と、そのために必要な施設の建設・整備を計画しました。この記念事業では、学生のチャレンジを支援する各種奨学金制度の創設、東京経済大学120年史の編纂などのほか、教育研究活動の進展を支える施設・設備の整備を計画し進めてきました。

この整備計画は、2012年から2014年に、新5号館、新図書館の建設などを行った国分寺キャンパス第1期整備事業に続く第2期整備事業と位置付けて、「学生のためのキャンパス整備」をコンセプトに、葵陵会館、学生会館、第一研究センターの建て替えなどを想定して、2023年1月の着工を予定しておりました。しかしながら、2020年初頭に新型コロナウイルス感染症が急拡大し、その後3年間に及ぶコロナ禍で社会情勢が急変したことを受けて、基本計画の見直しを余儀なくされております。現時点では、2024年5月の着工を目指して準備を進めているところではありますが、このところの建築資材の不足・急騰などもあり、さらに計画の見直しが必要とされております。

国分寺キャンパス第2期整備事業にあたりましては、卒業生をはじめ学内外の皆様から、すでに多くのご支援をいただいているところではありますが、これを有効に活用すべく、慎重に計画を進めてまいりますので、引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。

第28回 ホームカミングデー 2023 葵友会秋季懇親会

2023年 11月4日(土) | 東京経済大学 国分寺キャンパス 100周年記念館
15:00～(受付開始14:30)

東京経済大学全卒業生対象

参加費
無料

4年ぶりの「お帰りなさい！」
ホームカミングデーは、卒業生が母校に集い、世代を超え「会う」「語らう」
「懐かしむ」イベントです。皆様のご帰校を心よりお待ちしております。

申込方法

同封のチラシをご参照のうえ
必ず参加申し込みを行ってください。
WEB・郵送・メールの3つの申込方法があります。



WEBはこちら (Googleフォーム)

平成15年 (2003) 平成25年 (2013)
ご卒業の皆様へ

みなさま日々忙しくご活躍のことと思います。卒業後10年、20年を記念して、ホームカミングデーにて特別に専用テーブルをご用意してお待ちしております。記念品もご用意しておりますので、同期生の皆様をお誘いのうえご参加ください。

ホームカミングデーに関するお問い合わせ (月～金 9:00～11:30 13:00～17:00)
東京経済大学校友センター・葵友会 (国分寺キャンパス 大倉喜八郎 進一層館 B1F)
TEL: 042-328-8033/042-328-6100 E-mail: tokeikiyukai@s.tku.ac.jp

卒業生
対象

東京経済大学
大学オリジナル手帳

2020年から2022年まで郵送にてお送りしていたホームカミングデー参加記念品「卒業生手帳」は、今年はホームカミングデー終了後、残部がある場合のみ、遠方の卒業生にご対応いたします。

大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会 会員募集中!

著名な学者による講演やシンポジウム、
最新の学問の成果についての解説的な講座、
有力な芸術家による公演など、学術芸術活動を行います。

2023年度実施予定企画

学術講演会

老化を克服し健康長寿を目指す

日時: 2024年2月17日(土)
講師: 東京大学医科学研究所
癌防御シグナル分野 教授 中西 真 氏

芸術公演

オクサーナ・ステパニウク ソプラノリサイタル
～平和への願いを込めて～

日時: 2023年11月25日(土)
出演: ソプラノ歌手(ウクライナ出身)
オクサーナ・ステパニウク 氏

加入案内(資料請求)は右の二次元
コードから、もしくは東京経済大学
広報課までお問い合わせください。
TEL: 042-328-7900

2023年度実施予定企画



加入案内(資料請求)



||||||| 東経大 TOPICS |||||

高校生向けの30分間のオンライン講義シリーズ 「東経大ライブ」を配信

本学は2023年3月29日(水)から6月15日(木)にかけて、高校生に向けオンライン講義シリーズ「東経大ライブ」(全11回)を配信しました。高校生が進路選択において、学部名だけでは中身が見えず、興味・関心と学問とのつながりが分かりにくい状況があるという声を受け、身近な疑問を学問的な視点から考え理解を深める、「考え抜く実学。」を体験できる場として、各回約30分のショート講義をYouTubeライブ配信にて展開しました。本ライブ配信は、社会科学のさまざまな学問の学びの深さを知ること、大学探しや学部選びのヒントとして活用してもらう目的で実施し、全国各地の高校生に視聴いただき、現在もアーカイブで多くの方にご覧いただいています。ぜひ皆さまも、大学公式サイトよりお申し込みいただき、ご覧ください。

西武信用金庫より 「地域みらいプロジェクト」助成金を受け取りました

2023年4月26日(水)、本学は西武信用金庫より「地域みらいプロジェクト」の助成金目録を受け取りました。当日は、西武信用金庫西国分寺支店の吉野弘毅支店長と同支店の若手職員3名が来校され、尾崎寛直地域連携センター運営委員長(経済学部教授)に目録が手渡されました。「地域みらいプロジェクト」は西武信用金庫が地域活性化に取り組む事業に対して行う助成制度で、本学は2018年の同プロジェクト創設当初より毎年助成を受けており、国分寺市案内所での「ぶんじコンシェルジュ」活動やSDGs学生委員会の地域活動に役立てています。



1年間で約7,800本のペットボトルに代わる水を提供 非接触型カウンター式ウォータークーラー大活躍

2022年3月末に国分寺キャンパス内の2か所に設置した、非接触型カウンター式ウォータークーラーにより1年間でペットボトル約7,800本分の水を提供することができました。本学では2021年4月の東京経済大学SDGs宣言以降、さまざまな側面からSDGsに掲げられた課題を解決すべく取り組みを行っており、このウォータークーラーも活動のひとつです。また、学内にはこのウォータークーラー以外にも地下水汲み上げ式の給水器を複数台設置し、学生、教職員にマイボトルの利用を促しています。

昨今、多摩地域で水道水に利用していた井戸水から有機フッ素化合物(PFAS)が検出され、調査において一部国分寺市民の血中におけるPFAS値が高いことが報道されています。本学の水道水は、地下水を汲み上げ、濾過・消毒処理をして使用していますが、関係法令に基づき、51の水質基準及びその他の項目について年間の水質検査計画を立て、月1回の水質検査を行い問題ないことを確認しています。また、本学の水道水につきましては、活性炭による濾過を行い、厚生労働省の定める水質管理目標値(PFOS、PFOAの合計で50ng/L)を大きく下回っています。引き続き、定期的な検査を実施し、水質状況を確認していきます。

北村智コミュニケーション学部教授が 第38回(2022年度)テレコム人文学・社会科学賞受賞

北村智コミュニケーション学部教授が分担執筆した「ネット社会と民主主義—「分断」問題を調査データから検証する」が、第38回テレコム人文学・社会科学賞 奨励賞を受賞しました。北村智教授は過去にも、「ツイッターの心理学 情報環境と利用者行動」で、本学のコミュニケーション学部佐々木裕一教授と共に2016年に同奨励賞を受賞しています。

「子どもいじめ防止学会」学際的に初めての設立 ～現代法学部野村武司教授が理事長に

本学現代法学部の野村武司教授らは、2023年4月に一般社団法人「子どもいじめ防止学会」を創立しました。本学会の代表理事を務める野村教授は「いじめの問題はとても複雑です。いじめを防止するためにこれまでも医学、心理学、教育学、法学等さまざまな分野の研究者が取り組みを行ってききましたが、今まで学際的にひとつのプラットフォームとして取り組む学会はありませんでした。そこで新たなアプローチとして本学会を立ち上げました」とメッセージを寄せました。

OiTr設置から1年で生理用ナプキン約5,000枚の利用 5月には学生支援プロジェクトが無料配布を実施

女子学生の生理に伴う経済的・身体的困難に寄り添い、より充実した大学生活を過ごせるよう、本学は2022年3月に生理用ナプキンを無料配布する「OiTr」を導入し、2023年4月で1年が経過しました。現在、学内の7か所にOiTrが設置され、2022年度1年間で約5,000枚の利用がありました。学生からは、もっと設置場所を増やして欲しいなどの声も届いており、引き続き支援について検討する予定です。また、5月には若手教職員の有志団体「学生支援プロジェクト」が学内関係者から資金を募り、生理用品200セットを女子学生に無料配布しました。

本学では2023年度、新たに株式会社ツムラと共に、女性の身体の不調や不安を理解し解消するためのプログラムに取り組んでいます。社会科学系の大学として、社会課題でもあるジェンダーギャップについて真摯に考え、解消に向けこれからも取り組みを続けていきます。

本多将起さん(経済1年)が日本代表として2得点の活躍! アジア太平洋ろう者フットサル選手権大会で3位に

2023年4月29日(土)～5月10日(水)にイランで開催されたアジア太平洋ろう者フットサル選手権大会に、本学の本多将起さん(経済1年)が男子日本代表選手として出場、3位決定戦でイラクに勝利し3位となりました。これにより、2023年11月にブラジルで開催されるデフフットサルワールドカップと、2024年に開催される冬季デフリンピックの出場権を獲得しました。本多さんは「総合成績は3位、個人成績は6試合中2得点2アシスト。11月にあるW杯で世界一になるために、今所属しているレベルの高いチームで個の力を高めていきたい。今年11月はW杯、来年の2月には冬季デフリンピックがあるので応援よろしくお願いたします!」とコメントを寄せました。

大倉記念学芸振興会学術講演会 「小惑星リュウグウの石の声を聴く」を開催

大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会(略称:大倉記念学芸振興会)は2023年5月27日(土)、大倉喜八郎 進一層館フォワードホールにて学術講演会「小惑星リュウグウの石の声を聴く」を開催しました。今回は東京大学大学院理学系研究科教授でJAXA宇宙科学研究所特任教授である橘省吾先生をお招きし、探査機「はやぶさ2」がリュウグウに向かった目的から、はやぶさ2が持ち帰った小惑星リュウグウの石の分析により得られたことなどを、詳しく講演いただきました。質疑応答では複数の参加者より質問が寄せられ、講演会終了後も質問者が絶えませんでした。参加者の他大学生は「昔から宇宙が好きで現在も遠くの銀河の勉強をしているので、このような著名な先生の講演会に参加することができて嬉しい!」とコメントしました。



1年間の努力を称え 学業成績優秀者表彰式を開催

2023年5月～6月にかけ、本学は学部ごとに、2022年度に優れた成績を収めた学生を表彰する「学業成績優秀者表彰式」を開催しました。

表彰式では賞状や賞品が授与され、食事を摂りつつ教員や受賞者の歓談の時間が設けられました。



不安を自信に。就活へ共に挑む仲間を ～ 2023年度「就活チャレンジ講座」開講～

キャリアセンターは、2023年5月17日(水)より半年間をかけて全12回実施する「就活チャレンジ講座」を開講し、3年生約90名が参加しました。この講座は、就活を開始するきっかけを作り、学生の高い目標を実現させることを目的としています。

第1回は、昨今の就活状況やインターンシップの概要、就活の心構えなどの説明の後、働く意義をグループディスカッションしたり講座の目標を共有しあうなど、学生同士が積極的にかかわる様子が見られました。



「地域別学生交流会」4年ぶりに対面ランチ交流で開催

2023年5月22日(月)、本学父母の会は6号館7階大会議室で地域別学生交流会を開催し、約120名の学生が参加しました。この取り組みは、一人暮らしをする学生や同郷の学生同士の友好を深めることを目的に2011年から企画・実施しています。今年度は4年ぶりに立食形式での開催となりました。交流会は2部構成で実施され、第1部では食事をしながらファシリテーターを中心に自己紹介や懇談が行われ、第2部ではさまざまなゲームを通じて参加者の交流が進められました。会場は終始賑やかな雰囲気、参加した学生からは「友達ができて嬉しい」「大学で同郷の友人と出会えてよかった」などとコメントが寄せられました。



工学院大学との図書館相互利用が始まりました

本学は包括連携協定を結ぶ工学院大学と、2023年6月5日(月)より図書館の相互利用をスタートしました。2022年3月31日に図書館相互利用に関する覚書を締結し、学生及び教職員等が両大学の所蔵する図書の閲覧・貸出等のサービスを相互に受けられるよう調整を進めてきました。本学在学生・教職員等は、工学院大学「学術情報センター 工手の泉」(新宿キャンパス・八王子キャンパス)を以下のとおり利用することが可能です。

■利用できる方
本学の学部学生・大学院生及び専任教職員、その他図書館長が認めた方

■利用期間
在学・在籍期間

■利用可能サービス
館内閲覧、図書の貸出(延長なしの2冊・2週間)、データベース等の利用(館内利用のみ、一部使用できないものがあります)

■利用方法
直接訪問し「利用カード」を提示
※初回利用時に、学生証(または教職員証)の提示及び申請書を記載することで「利用カード」(単年度ごと要申請)が発行されます

東京経済大学報 第56巻第1号(夏号) アンケート

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で
10名様に東経大グッズをプレゼントさせていただきます。
右の二次元コードから、ぜひご回答をお願いします。

